



大阪外国語大学グリークラブ
創部 93 年記念演奏会

2019 年 11 月 4 日 (月・祝)

於：クレオ大阪中央 ホール

主催：大阪外国語大学グリークラブ OB 合唱団

後援：咲耶会 (大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会)

これまでの演奏会



創部 80 周年記念演奏会 (箕面)



さようなら大阪外国語大学集会 (箕面)



「山に祈る」を唱う演奏会 (西宮)



東西合同演奏会 (東京)



創部 85 周年・清水脩生誕 100 周年記念演奏会 (神戸)



学歌収録風景 (豊中)



清水脩生誕 100 周年記念演奏会 (東京)



創部 90 周年記念演奏会 (大阪)



「男声合唱の響き」
ジョイントコンサート (名古屋)



林誠先生退官記念「林誠祭」(豊中)



創部 90 周年記念演奏会 (東京)



創部 88 年記念演奏会 (大阪)

Autumn Joint Concert (東京)



清水脩先生 33 回忌記念演奏会 (大阪)



ご挨拶

代表より

大阪外国語大学
グリークラブOB合唱団
(大阪) 代表

梶江 靖史

本日は「大阪外国語大学グリークラブ創部 93 年記念演奏会」にお越しいただきまして、誠に、ありがとうございます。当グリークラブは創部(大正 15 年)以来、昭和、平成、令和と『外語特有の発音とハーモニーの美しさ』を四時代に渡り紡ぎ続けて、ことし創部 93 年を迎えました。

その間、1957 年(昭和 32 年)に第 1 回定期演奏会を開催、他の合唱団等との交流を深めるなど活発な活動を続ける中、1998 年(平成 10 年)、部員の減少などから第 41 回定期演奏会をもって現役活動休部のやむなきにいたりしました。私たち OB は休部後まもなく、この輝かしい歴史と伝統を少しでも長く繋ぎ続けたいとの思い強く OB 合唱団を結成し、20 年間東京、大阪、名古屋を拠点に活動を続けております。そして、2007 年には大阪大学との統合で大阪外大の名は消えましたが、「Gaigo will shine tonight」(クラブソング)を歌い続けています。さて、昨年 12 月には『清水 脩先生三十三回忌法要ならびに記念演奏会』が厳かに執り行われ、先生の作曲された古典的男声合唱組曲「月光とピエロ」を他の先生を偲ぶみなさんと共に歌いました。申すまでもなく清水脩先生はわが大阪外大グリークラブの大先輩(第 5 代指揮者)であり大作曲家であります。当クラブ定期演奏会に寄せられたメッセージで『外語グリーを愛してくださる方々とともに男声合唱を満喫できる喜びは他に例えようがない... 外語グリーメンの一人として百年史に名だけでも留め置かれるのを切に切にのぞんでいる』と書かれております。これからの清水脩作品と合わせて可能な限り歌いつないていきたいと思います。2021 年には創部 95 周年、2026 年には創部 100 周年記念演奏会を東京、大阪で開催する予定です。

指揮者より

大阪音楽大学
名誉教授

林 誠

皆様、本日のご来聴、誠に有り難うございます。今回僕は「ロシア民謡」ならびに「大手拓次の三つの詩」を担当します、僕はこの団を指揮するときには、団員諸氏が学生時代、歌った形で演奏することにしています。今回のロシア歌曲は、団員諸氏に持ち寄って頂いた資料により練習を開始しました。そこには、様々な編曲を採用して歌った記録が遺され、この団の深い歴史も記録されているようでした。その資料のほとんどが、鉄筆を使う切り込み、ガリ版 謄写版印刷、作成署名ある貴重な資料であり、所謂、青焼。蠟紙の滲みで音符が判読しづらいものも多数。又、実際に練習に入ってみると卒業年度により、解読が異なる等、愉快で頼もしい練習である一方、明らかな不合理性も散見されることにもなりました。そこでこの際楽譜を整理し、現在の団の特性を活かすべく、新たな外大版を作り統一する事で将来に向かおうと話しました、今日皆様にお聴き頂く編曲です。我々全員の精神的バックボーンであります山口慶四郎先生(注)は、きっと(えーいうつふにえむ)、と励まし、ご苦労さんと、労って下さることとおもいます。さて、我々の大きな使命である清水作品の演奏については、他に類例を見ないその音楽の純粋さ、完璧さは、誰もが認めるものの、演奏回数が極めて少ない「大手拓次の三つの詩」を選びました。歌いこなすには、相当の練習が必要。絶対音感を要求されている、とさえ思う程に革新的な推進が何か所もあるこの音楽。昨年、清水脩先生 33 回忌 音楽法要を先輩に捧げた熱い想いと感謝をこめて、皆で懸命に演奏します。

(注) 大阪外国語大学ロシア語名誉教授、グリークラブの現役、OB 合唱団の顧問を長年にわたり務められた。十八番が「ヴォルガの舟歌 “て(えーいうつふにえむ)と眠っておられるかのような pp で歌い始められた。2016 年ご逝去。

プログラム

第1ステージ 黒人霊歌

指揮：山下 均

Wade in de water

I Hear A Voice A- prayin'

Nobody Knows de Trouble I See

Keep in the Middle of the Road

Were You There?

Ev'ry Time I Feel the Spirit

第2ステージ ロシア民謡

指揮：林 誠

ともしび (Огонёк)

バイカル湖のほとり (По диким степям забайкалья)

ヴォルガの舟歌 (Ей, Ухнем!)

赤いサラファン (Красный Сарафан)

カリンカ (Калинка)

第3ステージ 「さすらう若人の歌」

作詞・作曲：Gustav Mahler

編曲：福永陽一郎

指揮：松岡一仁

ピアノ伴奏：藤井素乃

1. Wenn mein Schatz Hochzeit macht (彼女の婚礼の日には)

2. Ging heut' morgens übers Feld (朝の野原を歩けば)

3. Ich hab' ein glühend Messer (燃えるような短剣をもって)

4. Die zwei blauen Augen von meinem Schatz (彼女の青い眼が)

第4ステージ 「大手拓次の三つの詩」

詩：大手拓次 / 作曲：清水 脩

指揮：林 誠

1. とじた眼に

2. みずいろの風よ

3. しろい火の姿

第1ステージ 黒人霊歌

17～19世紀、多くの黒人達が西アフリカから西ヨーロッパの奴隷貿易船でアメリカに強制的に連れてこられ、南部のプランテーションに売られていきました。彼等の生活は、救いのない惨めなものでしたが、虐げられた奴隷制度の中で、新しく覚えた讃美歌や聖書に勇気づけられ、ひたすらに神の救いを求めて、天国へ行けることを願い、祈りによって現実の苦しみから逃れようとしていました。一日の苦役を終え、夜遅くに仲間達と秘密裏に「見えない教会」に集まり、神に祈り、歌い合っって酷い日々からの解放、人間としての真の自由を求めました。オハイオ川を境とする北部自由州への決死の逃亡を切望する黒人も多くいました。

彼らによって歌われた祈りの歌、魂の歌が黒人霊歌（スピリチュアル）なのです。スピリチュアルとは「聖霊」に満たされた状態の時に歌われる歌の意味で、シンコペーションの多いリズムや五音音階などが特徴で、白人の聖書、讃美歌と、アフリカ起源の音感やリズムが混合して生まれた音楽とも言われています。歌の内容には、キリスト教信仰の影響で、信仰生活を歌ったものが多いようです。これらの曲は、口承で1850年頃から人々に知られるようになり、南北戦争中（1861～1865年）に北部の白人により採譜され、広く人々に知られるようになったと言われています。現在、およそ450～500曲が黒人霊歌として知られていますが、その中から、本日は6曲を選びました。

01 Wade in de water

Arthur Hall 編曲

子供たちよ、川を歩いて渡りなさい。
神が水を乱して追手から、
苦しみから逃してくださるから。
もし先に着いたのなら、
私も続くからと友達に伝えてくれ。

02 I Hear A Voice A- prayin'

Houston Bright 作詞、作曲

怒りや叫びの音が聞こえる。
主よ、私の魂を御救い下さい。
罪びとの祈りの声を聞くたびに、
私に最後の審判の日の準備はできたの
だろうか、
私にはわからない。

03 Nobody Knows de Trouble I See

Leonard de Paur 編曲

誰も私が経験した悩みを知らない。
主のみ全てを知って下さっている。
グローリー・ハリルヤ！
私の人生は時には上向き、
時には惨めになるが、
心を強く持って
苦しみや悲しみに耐えてゆこう。

04 Keep in the Middle of the Road

Marshall Bartholomew 編曲

真っ直ぐ行こう。
道の真ん中を目的地まで。
前を見据えて、
足が疲れたら翼で進もう。
途中で倒れたら、
空で天使が微笑んでくれるので、
真っ直ぐ行こう。

05 Were You There?

H. T. Burleigh 編曲

彼らが私の主を十字架にかけた時、
お前もそこにいたのか？
彼らが私の主の亡き骸をお墓に
横たえた時、
お前もそこにいたのか？
思い出す度に深い罪に私の魂は震える。

06 Ev'ry Time I Feel the Spirit

William L. Dawson 編曲

聖霊の導きを感じるたびに
私は祈るのだ。
私の周りは光り輝いた。
主は全ては平和かとお尋ねになった。
ヨルダン川はたとえ冷たくても。
体は冷やすが、魂は燃えている。

第2ステージ ロシア民謡

ロシア民謡は古くはロシアの農民によって歌われてきた歌ですが、18世紀後半には西洋的な歌との融合により、ロシア民謡という新たなジャンルが形成されました。19世紀には農民層よりさらに御者、船曳き、兵士等々多様な社会層に派生し歌い継がれてきました。

本日は数多くあるロシア民謡の中から下記5曲を選び、ロシア語と日本語を交えお届けします。

01 ともしび (Огонёк)

ミハイル・イサコフスキーが第二次世界大戦中に発表した詩に自然発生的に多くのメロディーが付けられましたが、今日お届けするメロディーがこれまで歌い継がれてきましたメロディーです。日本でもロシア民謡を代表する曲として知られています。

02 バイカル湖のほとり (По диким степям забайкалья)

ロシア帝政末期に起こったデカブリストの乱に加わって捕まり、流刑になった人物を歌った歌とされています。バイカル湖は東シベリア南部にあるユーラシア大陸最大の淡水湖であり、地溝帯にできた細長い湖です。

03 ヴォルガの舟歌 (Ей, Ухнем!)

ヴォルガ川上流にあるニジニ・ノボゴロド地方で歌われていた民謡を採譜し広まった歌です。当時ヴォルガ川沿岸では、物資や旅客の輸送を担う船の接岸を補助する船曳き人夫達が多く働いており、人力で船を曳いて川から岸へ上げたり、川に下したりしていました。歌詞にある「エーイ・ウーフニェム」は船を曳く時の掛け声を表しています。

04 赤いサラファン (Красный Сарафан)

サラファンとはロシアで農民の女性が着る袖無しで長いドレス、つまり婚礼の衣装です。これを縫っている母親に、娘が「まだ私はお嫁にいかないから、その衣装を作るのはまだ早いわよ」と言うと、母親が「いつまでも若くはないんだよ。これを縫っていると自分の若かった娘の頃を思い出すわ」と答える親子の会話を歌っています。

05 カリнка (Калинка)

黒海近辺に広く分布するコサックダンスを伴う結婚を祝う歌で、ロシア民謡の代表的な歌の一つです。躍動的に速度を増していく合唱部分とゆっくりした幅の広い独唱部分が交互に現れて面白い対比をなしています。カリнкаはスイカズラ科の灌木カリナーナ愛称で、赤い実を付けることで花嫁を象徴しています。



第3ステージ 「さすらう若人の歌」

マーラー 24歳の時(1885年)、彼自身の若き日の失恋体験をもとに、バリトン独唱のために作詞・作曲されたもので、本日は、福永陽一郎氏が男声合唱曲用に編曲したものを使います。

第1曲(彼女の婚礼の日)

愛する人が嫁ぐ日、彼女は幸せそうだけれど、僕にとっては、悲しみの日だ。僕は暗い部屋に閉じこもって愛しい人を思って泣いた。小鳥は「青い花よ、しおれるな! なんてこの世は美しい」と歌っている。僕にとって、春はすでに過ぎ去ったのだ! 鳥よ、歌うな! 花よ、咲くな! ああ、何という苦しみ!

第2曲(朝の野原を歩けば)

僕は野原に出て行き、美しい自然に自分を合わせようとする。小鳥も釣鐘草の花も「この世はなんて素敵なんだ!」と語りかけてくる。ところが、我に戻り、Nein nein(いや、いや)と辛い自分を思う。

第3曲(燃えるような短剣をもって)

心の激しい動揺の歌。「僕の胸に燃え立つ剣が突き刺さっている」 O weh!, O weh! (ああ、苦しい!) 僕が空を見上げると、彼女の青い瞳が浮かんでいる。風に吹かれるブロンドの髪を見る。夢から醒めると、彼女の笑い声を聞く。 O weh!, O weh! (何という苦しみ!) 黒い棺の中に横たわって、永遠に眼を開かずいられたらいいのに!

第4曲(彼女の青い眼が)

僕は夜中に恋人と訣別して、さすらいの旅に出る。Ade(さよなら)を言ってくれる人もなしに! 僕を救うのは、道端に立つ一本のLindenbaum(菩提樹)。花の散る下で、僕は初めて安らぎと眠りを得る。人の世の仕打ちを忘れて、愛も苦しみも、この世のものすべてが美しくなった。この世の夢も Alles! Alles! (みんな、みんな)

解説：松岡一仁

グスタフ・マーラー (Gustav Mahler, 1860年7月7日 - 1911年5月18日) は、主にオーストリアのウィーンで活躍した作曲家・指揮者。交響曲と歌曲の大家として知られる。

声楽曲

カンタータ『嘆きの歌』(Das klagende Lied, 1878-80)

歌曲集『若き日の歌』(Lieder und Gesänge, 1880-91) - 全3集 14曲

歌曲集『さすらう若人の歌』(Lieder eines fahrenden Gesellen, 1883-85) - 全4曲

歌曲集『少年の魔法の角笛』(Des Knaben Wunderhorn, 1892-98) - 全12曲

リュッケルトの詩による5つの歌 (Rückert-Lieder, 1901-03) - 全5曲

歌曲集『亡き子をしのぶ歌』(Kindertotenlieder, 1901-04) - 全5曲

(Wikipediaより抜粋引用)

第3ステージ 「さすらう若人の歌」

1. Wenn mein Schatz Hochzeit macht (彼女の婚礼の日には)

Wenn mein Schatz Hochzeit macht,
Fröhliche Hochzeit macht,
Hab' ich meinen traurigen Tag!
Geh' ich in mein Kämmerlein,
Dunkles Kämmerlein!
Weine! Wein'! Um meinen Schatz,
Um meinen lieben Schatz!

Blümlein blau! Blümlein blau!
Verdorre nicht, verdorre nicht!
Vöglein süß! Vöglein süß!
Du singst auf grüner Heide!

Ach, wie ist die Welt so schön!
Ziküth! Ziküth!

Singet nicht! Blühet nicht!
Lenz ist ja vorbei!
Alles Singen ist nun aus!
Des Abends, wenn ich schlafen geh',
Denk' ich an mein Leide!

いとしいひとが嫁いでゆくと、
幸せそうに嫁いでゆくと、
僕を悲しみの日がおとすれた!
ほの暗い小部屋の中に、
小部屋の中に閉じこもって!
愛しい人を思って泣いた、
恋しい人を思って泣いた!

青い花よ、青い花よ!
しおれるな、しおれるな!
小鳥はやさしく甘い声で、
緑の原っぱで歌っている!

ああ、なんてこの世は美しいんだ!
ピイチク、ピイチクと!

鳥よ、歌うな!花よ、咲くな!
春はすでに過ぎ去ってしまった!
全ての歌声も止んでしまった!
夜に、眠りに就こうとしながら、
僕が思うのは、この胸の苦しみ!

2. Ging heut' morgens übers Feld (朝の野原を歩けば)

Ging heut' Morgen übers Feld,
Tau noch auf den Gräsern hing;
Sprach zu mir der lust'ge Fink:
"Ei, du! Gelt? Guten Morgen! Ei, gelt?
Du! Wird's nicht eine schöne Welt?
Zink! Zink! Schön und flink!
Wie mir doch die Welt gefällt!"

Auch die Glockenblum' am Feld
Hat mir lustig, guter Ding',
Mit den Glöckchen, klinge, kling, hern
Morgengruß gehellt:
"Wird' s nicht eine schöne Welt?
Kling, kling! Schönes Ding!
Wie mir doch die Welt gefällt! Heia!"

Und da fing im Sonnenschein
Gleich die Welt zu funkeln an;
Alles, Ton und Farbe gewann
Im Sonnenschein!
Blum' unt Vogel, groß und klein!
"Guten Tag! Ist's nicht eine schöne Welt?
Ei du! Gelt? Schöne Welt!"

Nun fängt auch mein Glück wohl an?!
Nein, nein, das ich mein',
Mir nimmer blühen kann!

この朝、野原を通ったときに、
草の葉に露が降りていて、
陽気なうそ鳥が語りかけてきた
「おはよう、ねえ、あなた、
いい日になりそうじゃありませんか?
素晴らしい日にね、フェウ、フェウ!
この世はなんて素敵なんだろう!」

野原に咲いている釣鐘草の花も、
陽気な、機嫌のいいところを見せて、
ティンコン、ティンコン、鈴を振りながら、
朝の挨拶を呼びかけてきた
「いい日になりそうじゃありませんか?
ティンコン、ティンコン、いい気持ちだな!
この世はなんて素敵なんだろう!」

そして、折りからの陽の光を浴びて
この世が一斉に煌めきはじめた、
みんな声を上げ、いろどりを帯びた、
あらゆるものが陽の光を浴びて
花も鳥も、大きいのも小さいのも!
「おはよう、いいお日和じゃありませんか?
ねえそうでしょう、素敵なお日だ!」

それでは、僕の幸福も開けるといえるのか?
いや!僕は思う、
僕の人生に花が咲くことはあり得ない、と!

3. Ich hab' ein glühend Messer (燃えるような短剣をもって)

Ich hab' ein glühend Messer
Ein Messer in meiner Brust,
O weh! O weh!
Das schneid't so tief
In jede Freud' und jede Lust,
So tief, so tief!

僕は真っ赤に焼けたナイフを持っている。
一本のナイフを、胸の中に
おお、なんという苦しみ!
そいつは深く突き刺さっている、
すべての喜びに、すべての楽しさに、
こんなにも深く、深く!

Ach, was ist das für ein böser Gast!
Nimmer hält er Ruh',
Nimmer hält er Rast,
Nicht bei Tag, nicht bei Nacht, wenn ich schlief!
O weh! O weh!

ああ、なんという凶悪な客であろう!
そいつは片時も休まず、片時も憩わない、
昼も休まない、夜も憩わない、
僕が眠っている時にさえも!
おお、なんという苦しみ!

Wenn ich in den Himmel seh',
Seh' ich zwei blaue Augen steh'n!
O weh! O weh!
Wenn ich im gelben Felde geh',
Seh' ich von fern das blonde Haar
Im Winde wehn!
O weh! O weh!

僕は大空をふり仰ぐとき
そこに二つの青い眼をみる!
おお、なんという苦しみ!
黄ばんだ野原を歩いていると、
僕は遠くから、
風に吹かれるブロンドの髪をみる!
おお、なんという苦しみ!

Wenn ich aus dem Traum auffahr'
Und höre klingen ihr silbern Lachen,
O weh! O weh!

僕は夢から醒めるときに、
彼女の銀のような笑い声を聞く、
おお、なんという苦しみ!

Ich wolt', ich läg' auf der schwarzen Bahr',
Könnt' nimmer, nimmer die Augen
aufmachen!

僕が高い棺台に横たわって
二度と眼を開かずにいられたらいいのに!

4. Die zwei blauen Augen von meinem Schatz (彼女の青い眼が)

Die zwei blauen Augen von meinem Schatz,
Die haben mich in die weite Welt geschickt.
Da mußst' ich Abschied nehmen
Vom allerliebsten Platz!
O Augen blau! Warum habt ihr mich angeblickt?
Nun hab' ich ewig Leid und Grämen!

僕の恋人の二つの青い眼が
広い世の中に僕を追い立てた。
そのために僕は大好きな土地から
去らねばならなかった!
おお、青い眼よ、何故僕を見つめたのだ?
僕に永遠の悩みと傷ついた心を残して。

Ich bin ausgegangen in stiller Nacht
Wohl über die dunkle Heide.
Hat mir niemand ade gesagt, ade!
Mein Gesell' war Lieb' und Leide!
Auf der Straße steht ein Lindenbaum,
Da hab' ich zum ersten Mal im Schlaf geruht!

僕は静かな夜の中を
暗い荒野を通過して、町を離れた。
さよならを言ってくれる人もなしに!
僕の道連れは愛と悩みだった!
道ばたに一本の菩提樹が立っていて、
僕は初めて眠りの中に憩った!

Unter dem Lindenbaum,
Der hat seine Blüten über mich geschneit,
Da wußst' ich nicht, wie das Leben tut,
War alles, ach, alles wieder gut!
Alles! Alles! Lieb und Leid,
Unt Welt, unt Traum!

花びらを雪のようにぼくに振りかける
菩提樹の枝蔭にいて、
僕は人の世の仕打ちを忘れた
なにもかもが、再び素晴らしくなった!
なにもかもが 愛も悩みも、
この世の夢も、みんな、みんな!

第4ステージ 「大手拓次の三つの詩」

清水脩が大手拓次の詩集「藍色の墓（ひき）」を読んで作曲した最初の合唱曲である。

1960年（昭和35年）、名古屋の男声合唱団「東海メールクワイアー」の委嘱により作曲され、同年9月に愛知文化講堂で初演された。東海メールクワイアーは同年11月の全日本合唱コンクールで第3曲「しろい火の姿」を自由曲とし見事全国優勝を果たしている。その後、40を超える男声合唱団で全3曲または一部が演奏されている。

作詞者：大手拓次について

大手拓次：（おおてたくじ、1887年11月3日 - 1934年4月18日）

群馬県碓氷郡西上磯部村（現安中市）に生まれる。安中中学校、高崎中学校、早稲田大学第三高等予科を経て、1907年9月、早稲田大学文学部英文科に入学。この頃より詩を発表しはじめた。1912年卒業。卒論は「私の象徴詩論」。卒業後しばらくは、詩作のほかこれといった仕事をせず、貧窮に甘んじていたが、1916年に就職。以後、生涯をサラリーマンと詩人の二重生活に捧げた。学生時代以来健康状態は概して良くなく、最後は神奈川県高座郡茅ヶ崎町（現・茅ヶ崎市）のサナトリウムで結核によって亡くなった。

生涯に書かれた詩作品は2,400近くにのぼる。作品の発表を盛んに行っていたものの、生前に詩集が発刊されることはなかった。友人や詩壇とのつきあいに乏しく、生涯を独身で通したため、彼に関する偏見や誤解は、生前も死後も強かった。死後（1936年）に詩集『藍色の墓』が刊行された。（Wikipediaより抜粋引用）

大阪外国語大学グリークラブは1970年（昭和45年）に同じく大手拓次作詞、清水脩作曲の男声合唱組曲「薔薇の散策」を第14回定期演奏会で演奏している。

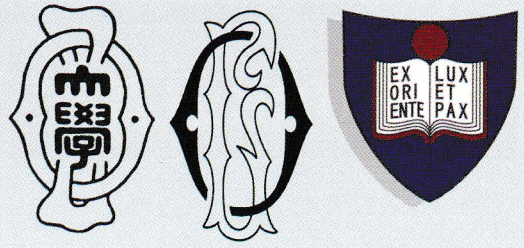
作曲者：清水脩について

清水脩：（しみず おさむ、1911年11月4日 - 1986年10月29日）

大阪外国語学校グリークラブ第5代指揮者 1931年度（昭和6年）。

大阪市天王寺区の真宗大谷派「佛足寺」で生まれる。小児期に得度。父親が四天王寺舞楽の楽人であった関係で幼少時は稚児舞を踊っていた。天王寺第7小学校、府立八尾中学校を経て、大阪外国語学校フランス語部入学、グリークラブで活躍。大阪外語卒業後、東京音楽学校（現東京芸術大学）選科で作曲を学ぶ。最初の受賞作は管弦楽「花に寄せたる舞蹈組曲」（1939年）。戦後直ぐ全日本合唱連盟創設に参画（1946年）。男声合唱組曲「月光とピエロ」の中の「秋のピエロ」は第1回全日本合唱コンクールの課題曲（男声）（1948年）として作曲された。1950年～1953年、東京男声合唱団の指揮者を務めた後は作曲活動が主体となった。出自の関係もあり「恩徳讃」(I) など多くの仏教讃歌を作曲し、邦楽器のための作品も数多く残した。また和製オペラの創作にも力を注ぎ、代表作の「修禅寺物語」を初め十指に余る作品がある。カワイ楽譜の社長、全日本合唱連盟理事長、日本合唱協会代表なども歴任。第1回芸術選奨（1951年）、芸術祭管弦楽曲部門第1回尾高賞（1953年）、毎日音楽祭賞、舞踊ペンクラブ賞、紫綬褒章（1975年）、勲四等旭日小授賞（1982年）などを受賞。若い時には得意の語学を生かした翻訳、訳詩なども多くある。訳詩者としてのペンネームは龍田和夫。1986年（昭和61年）逝去。自筆楽譜等の遺品は日本近代音楽館（東京都明治学院大学図書館内）に寄贈され、墓所は今回の会場に近い生家「佛足寺」（天王寺区北河堀町）に在る。

詳細は「清水脩データベース」 <http://coro-varon.mond.jp/shimizu.htm> をご参照下さい。



1. とじた眼に

うすうすにとじた わたしの眼に、
とおい日の あなたのすがたがうつる。

かげになりゆく とおい日の
そらいろのすがたが うつる。

こえをおさめた 小鳥のように
そよかぜに ながれさる。

2. みずいろの風よ

かぜよ、
松林（しょうりん）をぬけてくる 五月の風よ、
うすみどりの風よ、
そよかぜよ、そよかぜよ、ねむりの風よ、
わたしの髪を なよなよとする風よ、
わたしの手を わたしの足を
そして夢におぼれるわたしの心を
みずいろの ひかりのなかに 覚（さ）まさせる風よ、
かなしみと さびしさを
ひとつひとつ消してゆく風よ、
やわらかい うまれたばかりの銀色の風よ、
かぜよ かぜよ、
かろくうずまく さやさやとした海辺（うみべ）の風よ、
風はおまえの手のように しろく つめたく
薔薇（ばら）の花びらのかげのように ふくよかに
ゆれている ゆれている、
わたしの あわいまどろみのうえに。

3. しろい火の姿

わたしは 日のはなのなかにいる。
わたしは おもいもなく こともなく
時の流れにしたがって、
とおい あなたのことに おぼれている。
あるときは ややうすらぐようにおもうけれど、
それは とおりゆく 昨日のけはいで、
まことは いつの世に消えるともない
たましいから たましいへ つながってゆく
しろい しろい 火のすがたである。

本日の出演者

【名前・卒業年度・語科】

指揮者 松岡 一仁 1971E/Second Tenor、山下 均 1974S/Top Tenor

Top Tenor 西村 信勝 1967S 伊東 昭廣 1967E 柳楽 行雄 1970S
小竹 正幸 1971R 五十嵐 強 1979IP 永谷 勉 1981IP
北村 照夫 1982R 保川 一治 1984M 戸田 貴之 1992TV

Second Tenor 紙谷 敬治 1960IN 赤城 一字 1965R 鈴木 惟司 1968S
弥勒 誠之 1968友 柳沢 長四郎 1970IN 加藤 直樹 1973S
永山 隆 1983E 北野 忍 1982IN 小林 卓郎 1985R

Baritone 河盛 龍三 1959E 大西 昌三 1962S 直場 徳宥 1962S
小笠原 肇 1963S 新出 武雄 1963S 西川 哲朗 1965IN
岸田 勝昭 1967IN 浜崎 慎吾 1969R 鶴飼 茂 1971IN
岸本 保 1979C 正木 啓 1982IP 西山 恭介 1986S
松村 尚人 1987S 福田 洋之 1994A 表 昇平 2007友

Bass 村主 寧民 1963D 森 滋 1966A 梶江 靖史 1969IN
真鍋 一史 1970DM 南 雄次 1971R 八木 哲夫 1973E
新谷 昭一 1979C 米野 勝 1979友 片川 徳明 1980D
伊藤 道彦 1980M 山内 清之 1982F 山口 伸 1984D
田中 貴義 1989R 安良 雄一 1989R 松尾 年展 2000TV

語科略称：

A: アラビア語 C: 中国語 D: ドイツ語 DM: デンマーク語 E: 英語 F: フランス語 IN: インドネシア語 IP: インド・パキスタン語 M: モンゴル語 R: ロシア語 S: イスパニア(スペイン)語 TV: タイ・ベトナム語 友: 友情出演(他大学)

指揮者：林 誠

大阪音楽大学卒業、同大学院修了。71年日伊声楽コンクール シエナ大賞、76年大阪文化祭賞、大阪府民劇場賞、音楽クリティック・クラブ賞、79年再び大阪文化祭賞を受賞。81年には、東京で創立100周年の為に来日した小澤征爾ボストン交響楽団の第九公演にソリストとして出演。82年の東京、大阪でのリサイタルに対し、芸術選奨文部大臣新人賞を受賞。関西歌劇団(常任理事)名誉団員、日本演奏家連盟会員、大阪音楽大学名誉教授。全日本学生音楽コンクール、トスティ国際コンクール、神戸国際音楽コンクール、他審査員。1973年から大阪外国語大学グリークラブのヴォイストレーナーに就任、そのご縁でOB合唱団設立後の2003年から再び指揮、指導を仰いでいる。外大グリーとのお付き合いは通算41年にも及びます。

ピアニスト：藤井 素乃

3才よりピアノを始める。洗足学園短期大学音楽科ピアノ専攻卒業。その後大東音楽アカデミー大東学園専門学校音楽科ピアノ科卒業。ピアノを横井和子、北川正、岩本淑子、佐々木弥栄子の各氏に師事。現在、箕面混声合唱団や合唱団プレミアのピアノ伴奏、プライダルのオルガン演奏等で活躍中。東京音楽センター所属。

95周年演奏会のお知らせ

2021年秋の「創部95周年記念演奏会 大阪公演」では、伝統の清水脩作品他を予定しております。また、初めてのワンステージメンバー一般公募を計画中です。詳細は後日お知らせします。

パンフレットデザイン担当：八代田幾世(モンゴル語大29/1981年卒)